

実践事例

鑑賞を通して思考力・判断力・表現力を養う授業

～蘭亭序を主体的に鑑賞し、臨書学習へつなげる～

埼玉県立川口高等学校 教諭 知見侑紀

はじめに

令和4年度より高校1年生で新教育課程指導要領が実施され、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点における評価付けが導入された。「育成を目指す資質・能力」を3つの柱で示すことにより、より具体的にどのような力を養うのかが明確化された。また、実社会の中では、自らが考え課題を解決していくという問題解決能力が求められている。

現在、この新課程となり2年目になるが、授業の中では3観点を意識しつつ、生徒の興味関心が湧く授業を心掛けて実践している。鑑賞を通して生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てたいと考えている。また、SNS等の発展において対人関係が希薄となりつつある中で、自らを見つめ直し、他者を尊重する思いやりの心情も育んでいきたい。

ここでは、『書道I』「蘭亭序」の学習における鑑賞学習の実戦について取り上げてみる。

1. 単元名

「書道I」漢字の書（行書）：蘭亭序

2. 単元の内容・ねらい

蘭亭序の学習を通して、古典の特徴や時代背景等を理解するとともに生徒自らが自作の臨書作品や他者の作品について作品鑑賞や相互批評を行う。自己の作品を鑑賞する事で自らの改善点や成長した点について理解することができ、より深い臨書学習へつなげていく。また、相互鑑賞、意見交換をする事で他者を思いやる気持ちを育み、他者を認め、尊重する態度も養っていく。

3. 指導計画

○指導の意図

鑑賞を通して感性を働かせ、書のよさや美しさなどを感じ取ってもらいたいと考えた。特に鑑賞の際には、指導者が誘導的に先入観を与えると多くの生徒が決まりきった考え方になってしまふため、伝え方には留意した。また、生徒は他者の作品について意見を述べるときに躊躇してしまうことがあるため、自己の作品やグループの作品といった特定の他者の作品にならないように配慮し、主体的、対話的な活動になるよう心掛けた。

○具体的な取り組み

- ① さまざまな蘭亭序の比較
- ② 蘭亭序中の「之」について
- ③ 自己の臨書作品「茂林」について鑑賞
- ④ 「天朗氣清」の臨書するうえでのポイントをグループ内で共有
- ⑤ 「天朗氣清」をリレー書道（4人1組）で行い、他グループの作品批評

◎授業の流れ

時間	学習内容
1	蘭亭序の概要 <ul style="list-style-type: none">● 蘭亭序の概要を説明する。
2	さまざまな蘭亭序の比較（上記①） <ul style="list-style-type: none">● 神龍半印本、張金界奴本、貢名菘翁臨蘭亭序等を比較させる。
3	蘭亭序の「之」について（上記②） <ul style="list-style-type: none">● 蘭亭序は全文で何文字か？「之」は何文字出てくるか？ 等の問い合わせをする。
4	「茂林」の臨書1 <ul style="list-style-type: none">● ここでは筆順等の説明だけにして、生徒自身が見たままに臨書させる。
5・6	「茂林」の臨書2 <ul style="list-style-type: none">● 「茂林」について気脈や運筆のリズム等について細かな解説を行い、再度臨書させる。



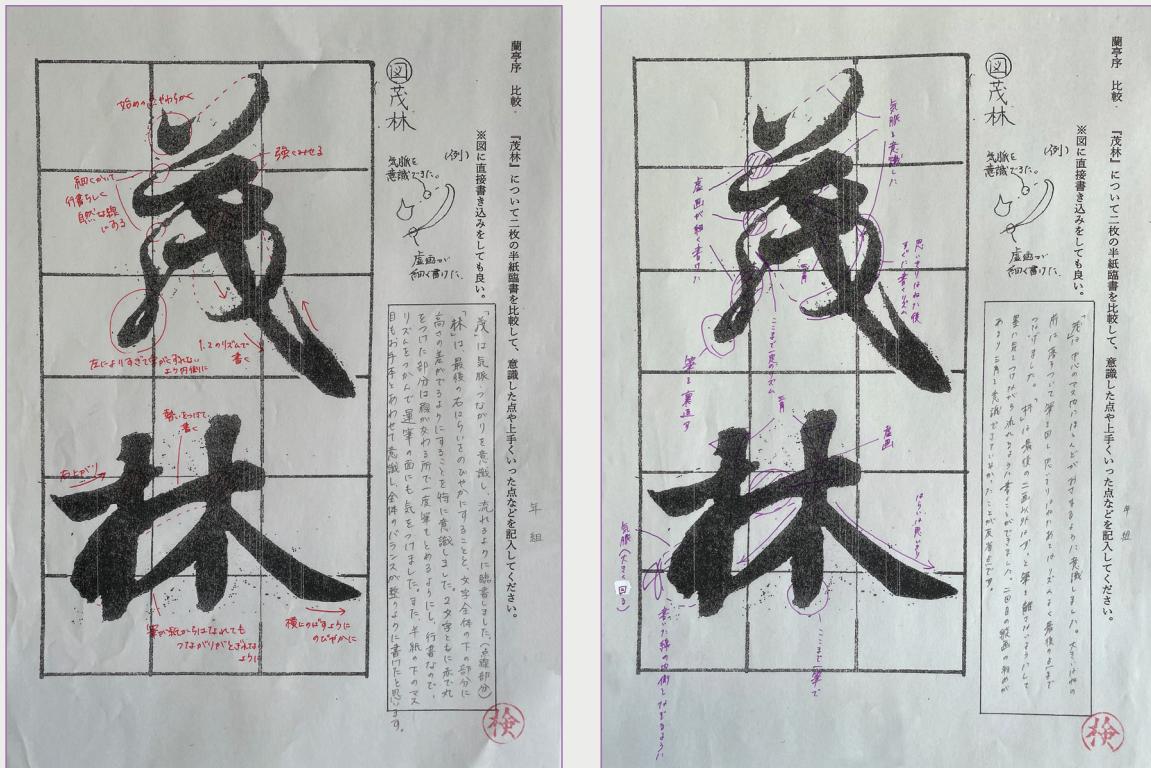
時間

学習内容

自己の臨書作品「茂林」について鑑賞（上記③）

- 1と2の「茂林」を比較して、意識した点、よくなつた点、さらによくするにはどうすればよいか等を、プリント（図版1、2）に書き込ませる。書き込み欄の説明に加え、自分以外の相手にも伝わりやすいように「茂林」の図版にも書き込みをさせる。

7



8

リレー書道「天朗氣清」

- 「天朗氣清」について臨書する上での各字のポイントについて生徒各々に考えさせる。
- 4人1グループで臨書するうえでの注意点を共有させ、1人1文字担当する文字を決めさせる。

9

リレー書道「天朗氣清」：臨書するうえでのポイントをグループ内で共有（上記④）

- グループごとに一字ずつのリレー書道を行って4人で合作による「天朗氣清」の臨書を行わせる。その際、合作をするうえでの注意点を伝えておく。（統一感、紙面構成、字粒の大きさ等）

10

リレー書道「天朗氣清」：他グループの作品批評

- 各グループの作品（10作品、本校は40人クラスの授業）を張り出し、意見交換を行う。
- 各グループで意識した点をそれぞれ発表させる。
- 生徒1人ひとりがよいと思った作品について具体的により点、改善点を考えてプリントに記入させ、数人を指名して発表させる。

◎生徒の声

第2時

- 神龍半印本のほうが張金界奴本よりも線がすっきりとしている。神龍半印本「歳」には点があった。
- 神龍半印本のほうが張金界奴本よりも太い字と細い字の変化がある。

第3時

- 気脈を意識して臨書することができたため、文字かなめらかになった。
- 1度目のときよりも、「茂」の斜めの線が長く書いて字形を捉えることができた。

第9時

- 起筆の入り方に注意する。「朗」の月の2画目の入り方。
- 線が全体的に細い。「氣」は上部が小さく、下部が大きく横に張っている。

第10時

- 4人の字の大きさと文字の重心がそろっていることでまとまりがあり、1人で書いたような作品だった。
- 字の大きさがそろっていてとても統一感があった。上下の文字の中心がずれていたので改善するとさらにまとまった作品になると思う。

リレー書道をしてみて

- 1人で臨書しているときよりも緊張感があり、ほかの人の臨書した文字をよく観察してから臨書できた。
- 他の人が注意点を教えてくれたので、いつもよりうまく書くことができた。

おわりに

今回の単元では、生徒がより主体的に学習に取り組む姿を多く目にすることができた。時間を重ねていくごとに生徒はどのような点に注意して臨書するべきか理解できてきたように感じた。表現と鑑賞とは表裏一体であるが、今回の単元を通して改めてそのことを知ることができた。

また、グループ学習を入れることによって生徒は主体的かつ対話的に活動に参加することができ、自然と古典を深く観察することができていた。自己の作品についても一度冷静になって客観的に鑑賞することで、成長した点や改善点をより深く考えることができていた。何より蘭亭序という偉大な古典に思いを巡らせ、少しでも原本に近づきたいと主体的に臨書をしてくれたことが最大の収穫だったと思う。

授業では、この後に原寸大臨書を行うが、字粒が小さくなっても鑑賞学習を取り入れていることでスムーズに移行することができた。

「実践事例」は、東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/> でも会員限定で公開しております。

東書Eネットは、教育関係者を対象とした教育情報・教育資料の提供サイトです。会員登録はWebやFAXなどで受け付けております。

Copyright©2024 by Tokyo Shoseki Co.,Ltd.,Tokyo All rights reserved. Made in Japan.